

証券コード：4447

株式会社ピー・ビーシステムズ

２０２６年９月期

決算補足資料

２０２６/１１/１２

目　次

1. 2026年9月期 決算ハイライト　P2

2. 2026年9月期 成長戦略の進捗　P14

3. 2026年9月期 株主還元と株主優待　P22

4. 2027年9月期 計画　P25

5. 2027年9月期 株主還元　P37

© 2026 PBsystems,Inc.

2026年9月期 決算ハイライト

© 2026 PBsystems,Inc.

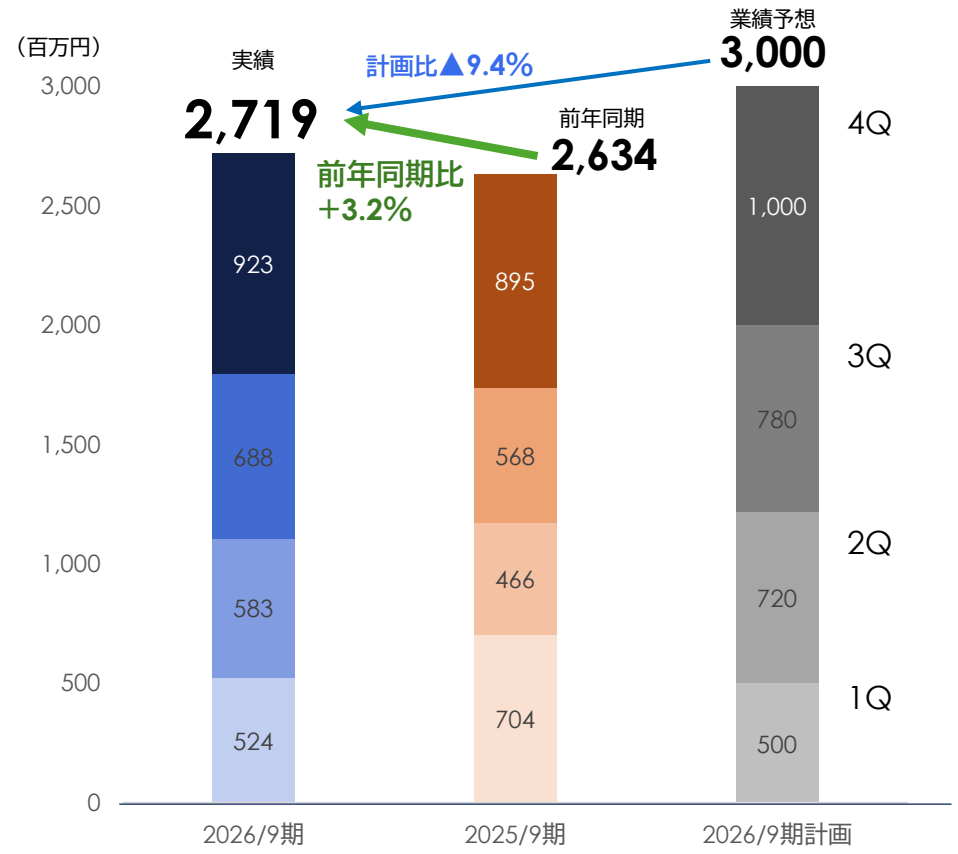
2026年9月期 決算トピック

- 予算未達も、前年同期比増収増益で来期への足掛かりに
- 営業利益率は前年同期4.7%→8.1%に回復、EMO黒字化達成！
- 受注残は前年同期比+2.3%
- 若手の戦力化急ピッチ、2027年新卒採用は6名
- 増配、期末配当は予想値上限の12.5円、年間配当額22.5円

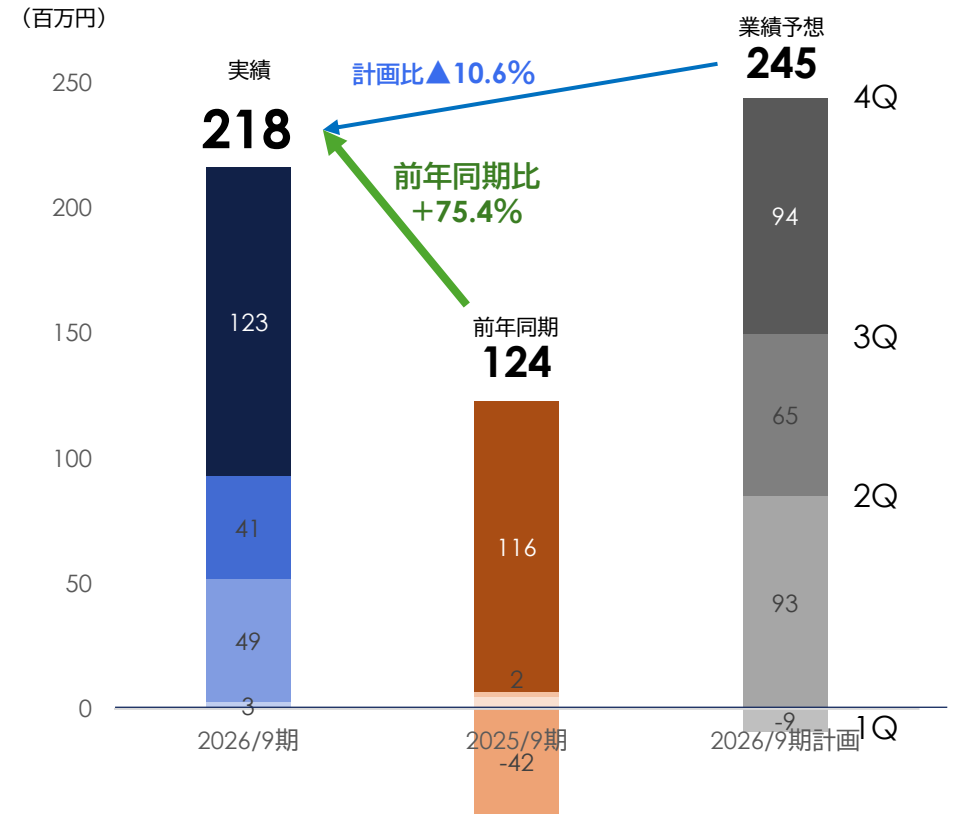
© 2026 PBsystems,Inc.

2026年9月期 実績と前年同期比と計画値比

売上高



営業利益



© 2026 PBsystems,Inc.

2026年9月期 業績実績と前期比・計画比

（単位：百万円）	2026/9 実績	前年同期比較		2026/9 通期予想比較	
		2025/9 実績	前年同期比	2026/9 通期予想（※）	予想比
売上高	**2,719**	2,634	**+3.2%**	3,000	▲9.4%
売上原価	**1,957**	1,937	+1.0%	2,139	▲8.5%
売上総利益	**761**	697	+9.3%	860	▲11.4%
販売費及び一般管理費	**543**	572	▲5.2%	615	▲11.7%
営業利益	**218**	124	**+75.4%**	245	▲10.6%
経常利益	**228**	127	+79.4%	251	▲9.3%
当期純利益	**165**	85	+93.5%	165	**+0.3%**
ROE（自己資本利益率）	**14.4%**	6.6%	**+7.8P**	14.0%	**+0.4P**

（※）通期予想は、2025年11月13日に公表した予想数値を記載しています。

© 2026 PBsystems,Inc.

セキュアクラウドシステム事業 実績

（単位：百万円）	2026/9 実績	前年同期比較		2026/9 通期予想比較	
		2025/9 実績	前年同期比	2026/9 通期予想（※1）	予想比
売上高	**2,582**	2,553	+1.2%	2,821	▲8.4%
セグメント損益（※2）	**217**	144	+50.5%	232	▲6.8%
営業利益率	**8.4%**	5.6%	+2.8P	8.3%	+0.1P

- **売上高は前年同期比+1.2%、セグメント損益は約1.5倍の217百万円に拡大**

・インフラ刷新・セキュリティ対策の構築実装など役務案件強化の営業戦略と**若手エンジニアの早期戦力化**により、
実装売上は前年同期比+52%、営業利益率は**前年同期5.6% →8.4%に上昇**

・期首計画値からは、ハードウェアの納期遅延・価格高騰による顧客のシステム刷新の先送りの影響で、売上が8.4%、損益も6.8%未達（対策はP8）

・第3四半期より不確実案件の除外など受注見込みの精度向上に着手。4Qの実装売上は前年同四半期の約1.9倍となり、下期で計画との差を縮小

・大口顧客1社への依存度（全社売上比）は、2024年9月期33%→2026年9月期10.6%へ低下し、顧客基盤が強化

（※1）通期予想は、2025年11月13日に公表した予想数値を記載しています。
（※2）実態をわかりやすく表現するために、参考数値として全社費用配賦後のセグメント損益を記載しています。（全社費用を各セグメントの人員割合で配賦）

© 2026 PBsystems,Inc.

エモーショナルシステム事業 実績

（単位：百万円）	2026/9 実績	前年同期比較		2026/9 通期予想比較	
		2025/9 実績	前年同期比	2026/9 通期予想（※1）	予想比
売上高	**136**	81	＋67.9%	178	▲23.8%
セグメント損益（※2）	**1**	▲19	-	12	▲84.3%
営業利益率	**1.4%**	-	-	6.8%	▲5.4P

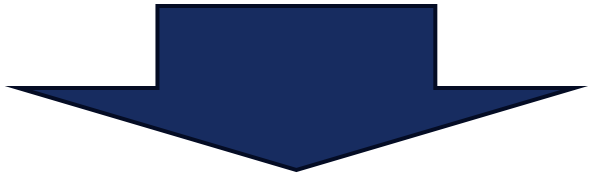
- **売上高は、前年同期から+67.9%、損益は、前年同期差+21百万円で通期黒字化を達成**
  - ・MetaAnywhere®による前期受注のテーマパーク大型アトラクションのリニューアル案件を予定通り3Qに納入、7月にオープン。
  - ・計画比の未達は、自治体・海外施設向けなどの見込み案件で、顧客の予算化や工期の遅れにより受注・売上が2027年9月期以降にずれたことが要因
  - ・MetaWalkers®のイベント案件は合計8件（金融機関・自治体・大学・通信事業者・製造業・商業施設向け）を実施

（※1）通期予想は、2025年11月13日に公表した予想数値を記載しています。
（※2）実態をわかりやすく表現するために、参考数値として全社費用配賦後のセグメント損益を記載しています。（全社費用を各セグメントの人員割合で配賦）

© 2026 PBsystems,Inc.

計画未達の要因と対策

（計画未達の主要因）
ハードウェア納期遅延による売上予定案件の期ズレ
営業体制及び案件の進捗・受注確度の管理に課題

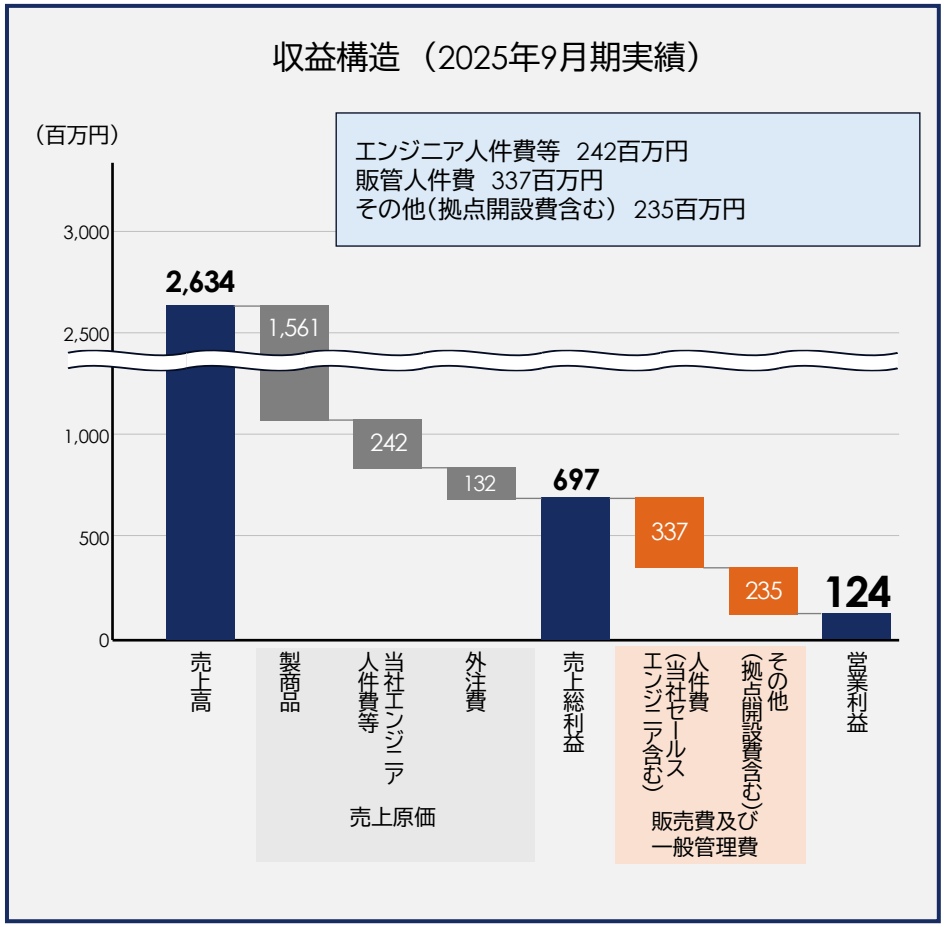


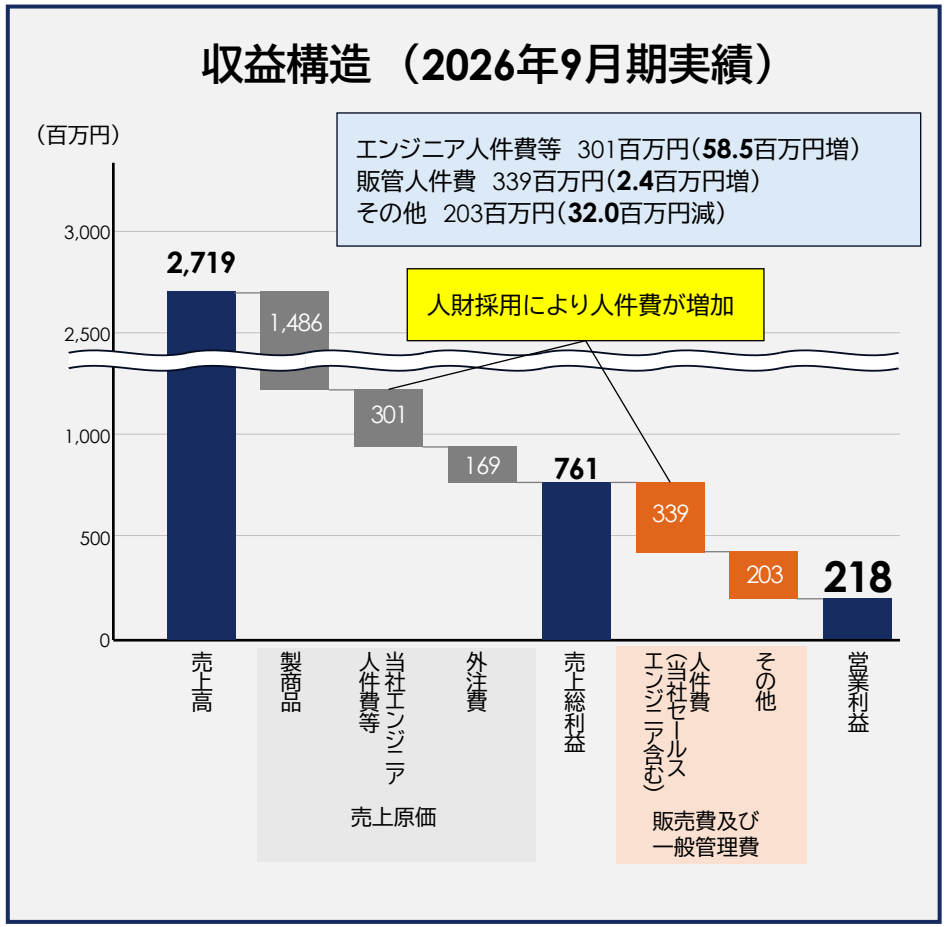
①顧客への早期発注取り付け等、納期遅延への対策強化
②ハードウェアメーカーとの直接的な関係の構築、連携の強化
③東京営業部の拡張、人員の増強
④営業手法の見直し、案件管理の仕組み化

© 2026 PBsystems,Inc.

2026年9月期 収益構造

規模拡大に向けた積極投資を継続





※端数処理の関係で合計数値が合わない場合があります。

© 2026 PBsystems,Inc.

KGI と KPI

KGI「2030年9月期までにROE30%を達成、維持継続」を実現するためには、売上高と利益の持続的な拡大が必要
積極的な人財投資の成果を定着させ、既存事業の効率化を進めると同時に、中長期的な成長を実現するため、以下をKPIとして設定

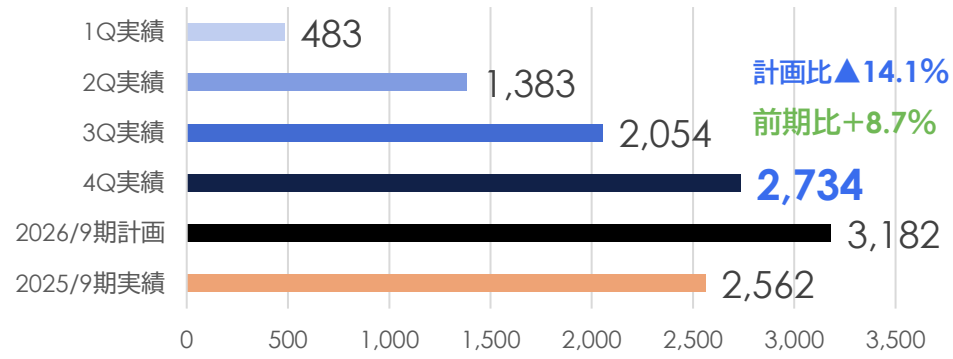
KGI

ROE(自己資本利益率):目標 30%　達成期限:**2030年9月期**

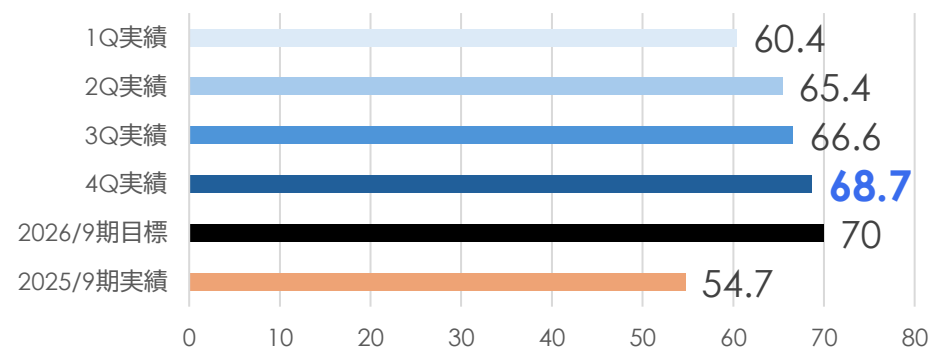
2022年9月期	2023年9月期	2024年9月期	2025年9月期	2026年9月期
22.6 %	19.1 %	19.0 %	6.6 %	実績 **14.4 %** 計画14.0 %

- 2022年9月期から2024年9月期までは、株式上場(重複上場)による資本金・資本準備金の増加と毎期順調に利益を計上したことに加え、自己株式の取得も行い、ROEは20%前後を推移
- 2025年9月期は、当期純利益の減少により、2024年9月期から12.4ポイント減
- 2026年9月期は、2025年9月期から7.8ポイント増、計画から0.4ポイント増

KPI 受注金額



KPI エンジニアの売上稼働率(※1)



(※1)エンジニアの売上稼働率 ： エンジニアの年間総稼働時間に占める売上案件の年間総稼働時間の割合

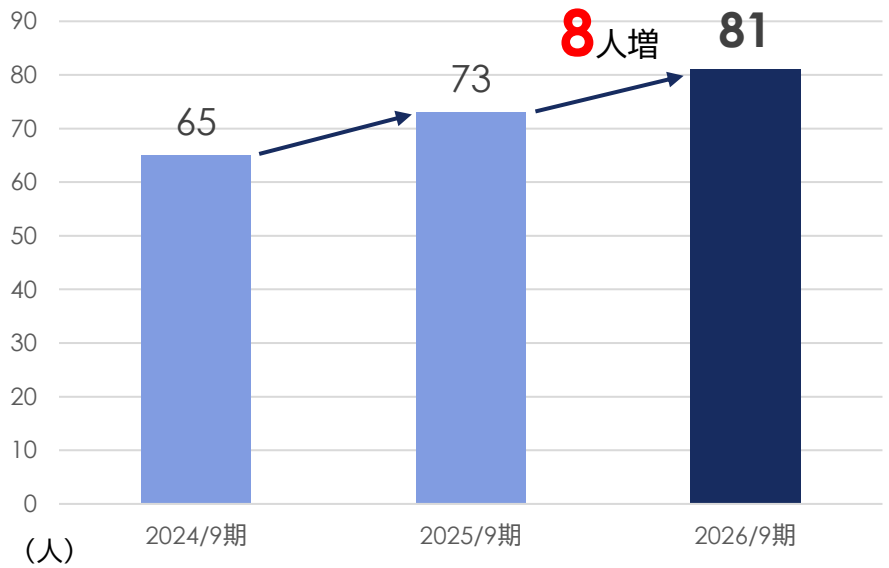
© 2026 PBsystems,Inc.

人財採用の状況

目先の節目である社員数100名に向けて採用の強化

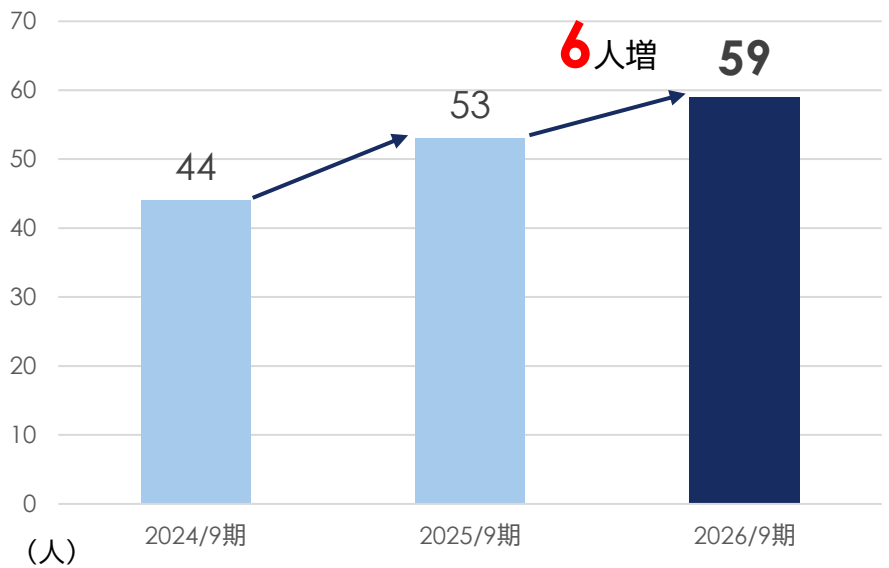
従業員数の推移

採用者数は新卒10人、中途6人、合計16人
2027年卒新卒採用は**6人内定**



エンジニア・セールスエンジニア数の推移

前期末から6人増



（※）人数にはいずれも派遣社員・パート社員を含みません

© 2026 PBsystems,Inc.

受注残

受注残高

セキュアクラウドシステム事業	**7.06億円**	前年同期比 ＋ 14.5%
エモーショナルシステム事業	**0.22億円**	前年同期比 ▲ 76.8%
合計	**7.28億円**	前年同期比 ＋ **2.3%**

受注残詳細

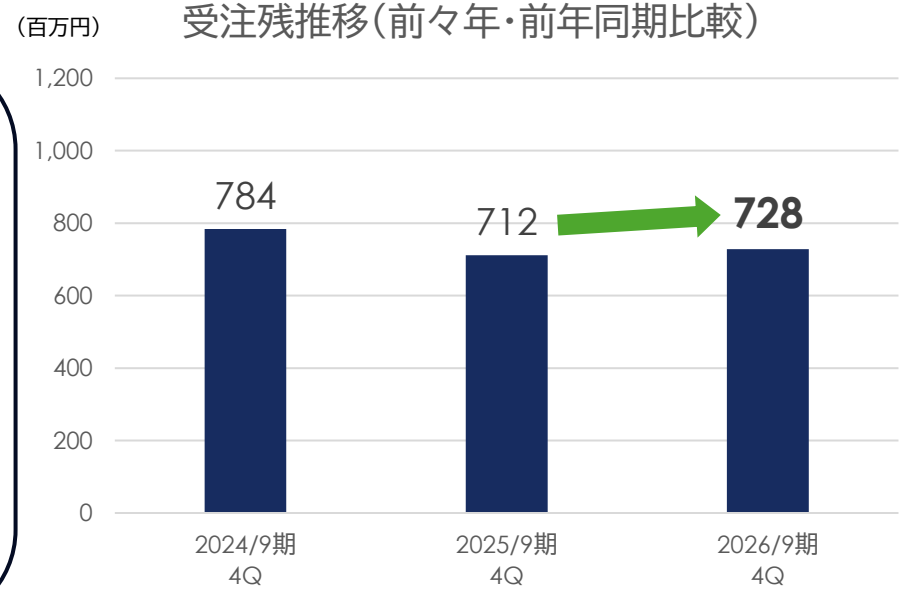
・期末受注残は前年同期を上回ったが、4Qの大型案件の売上計上により7月末（9.5億円）から減少。受注残の積み上げを2027年9月期の重要課題に位置付け

・期末受注残高のうち約4.0億円が2027年9月期1Qの売上予定（1Q計画の約7割）

・4Qは、製造業の仮想化基盤・サーバー更改、保険業のシステム刷新、エネルギー関連企業データベースのOCI移行、医療系企業の認証基盤更改、セキュアなリモート接続環境など、基盤更改・クラウド移行・セキュリティ強化等の案件を受注

・EMOの受注残減少は、前期の大型案件を3Qまでに売上計上したため

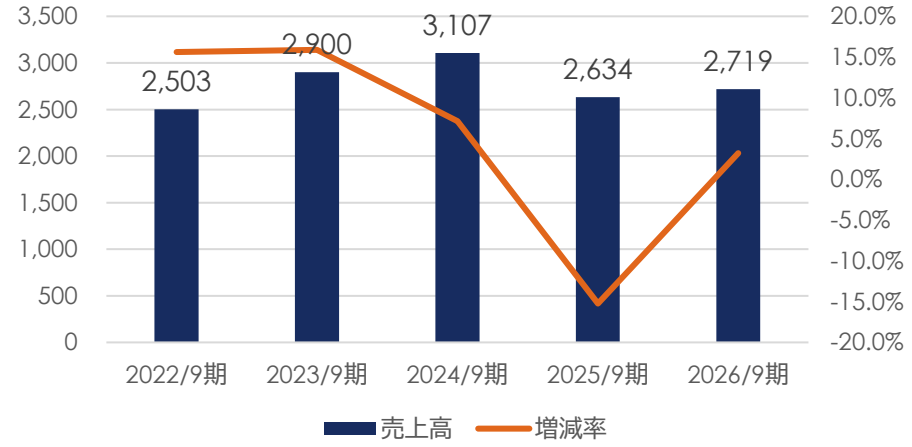
・期末後も自治体向け仮想化基盤更改、大学の脱VMware、検定機関のOCI環境構築、官公庁のPDF編集ソフト導入等を受注し、直近10月末時点の受注残は約**7.8**億円



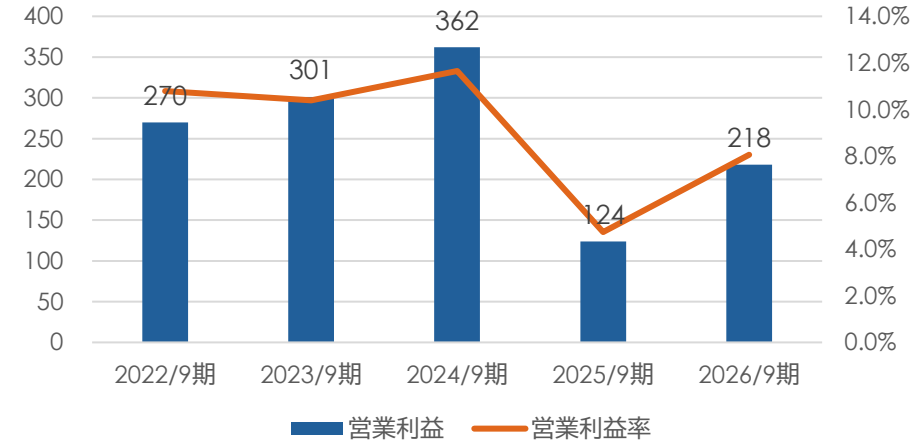
© 2026 PBsystems,Inc.

経営指標推移

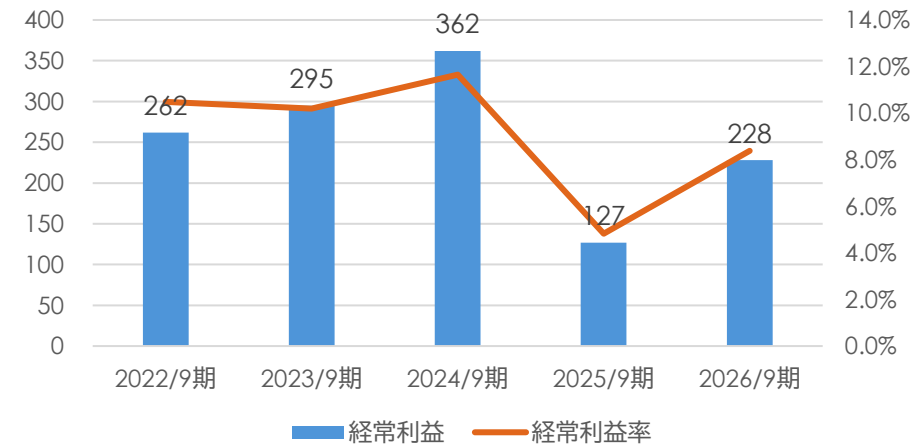
売上高



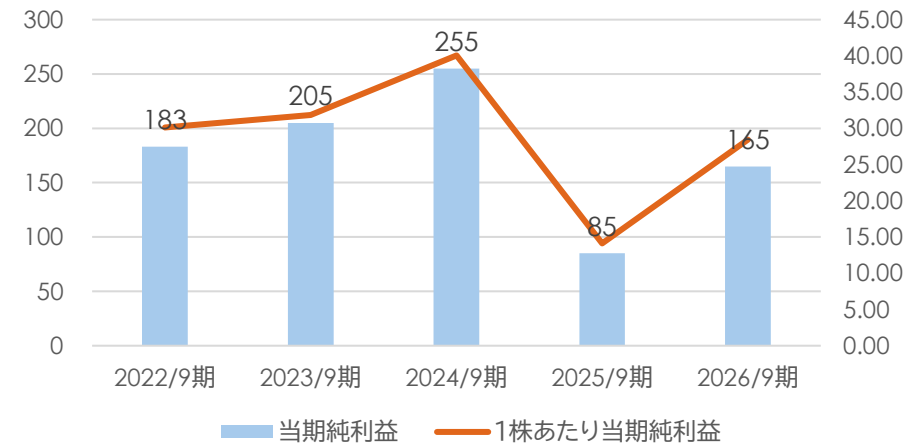
営業利益



経常利益



当期純利益



© 2026 PBsystems,Inc.

2026年9月期　成長戦略の進捗

© 2026 PBsystems,Inc.

各事業の3つの柱と進捗

セキュアクラウドシステム事業（SCL）

基幹システムの
ハイブリッドクラウド



サイバーセキュリティ

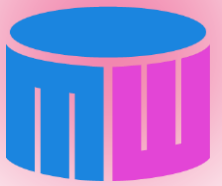


スマートファクトリー



エモーショナルシステム事業（EMO）

MetaWalkers®



MetaAnywhere®



企業・自治体向け
メタバース



© 2026 PBsystems,Inc.

セキュアクラウドシステム事業　1:基幹システムのハイブリッドクラウド

「基幹システムの刷新やアップデート、クラウド移行等のニーズ」への対応

戦略

① 基幹システムのインフラ刷新における最適解提案
オンプレミスの信頼性とクラウドの柔軟性を活かし、拡張性・可用性、災害対策・セキュリティを強化　コスト最適化と業務継続性の両立で、システムの安定運用と競争力向上の実現

②AI活用による業務システムのモダナイゼーション
レガシーアプリケーションをAIを活用して刷新・高度化
オラクルクラウド（OCI）(※1)やローカルLLM/SLM(※2)基盤との連携も見据え、迅速な意思決定と競争力の向上を目指す

③ DELL社等のHWメーカーとの協業拡大
ハイブリッドクラウド戦略と連動し、DELL社はもとより複数メーカーとの取引拡大を推進　高利益が見込めるストレージ販売にも取り組み、売上拡大と利益率向上を図る

進捗状況

①⇒保守切れや脆弱性を抱えた古いシステムインフラは、障害やサイバー攻撃で業務が止まるリスクを抱える
4Qは首都圏の新規顧客の仮想基盤更改を9月に完了、通販事業者ではVMwareからHyper-Vへの移行を推進し、DB基盤のOCI移行も受注。ハイブリッドクラウド関連は全社売上の約8割

②⇒ AI駆動型開発事例進展中
食品製造業向け基幹システム刷新では、AIを活用したAI駆動型開発により当初計画を大幅に上回るスピードで進展中
モダナイズを起点に地場企業の新規顧客も獲得

③⇒製造業のHCI基盤など大型案件を確保
納期遅延・価格高騰を受け、災害対策にも有効なバックアップ製品など、納期に左右されにくい商材を強化

（※1）**Oracle Cloud Infrastructure** の略。Oracle Databaseに最適化されたクラウド基盤で、基幹システムのクラウド移行・最適化を支援するサービス。
（※2）**Local Large/Small Language Model** の略。クラウドを利用せず自社内で生成AIを運用する仕組み。セキュリティや応答速度に優れている。

© 2026 PBsystems,Inc.

セキュアクラウドシステム事業　2:サイバーセキュリティ

「防御から復旧まで対応する総合セキュリティ対策」への対応

戦略

①自社サービス「サイバー忍法帖®」販売促進
サイバー攻撃に対する予防だけではなく、万が一の被害最小化と迅速復旧を実現する、当社独自のサイバー攻撃対策のトータルサービス「サイバー忍法帖®」の販売推進
日々高度複雑多様化する一方のサイバー攻撃で、システムレジリエンスの重要性が改めて注目
特定メーカーに依存せず、複数製品を組み合わせて導入・運用・監視・復旧・ログ保全・フォレンジックまでワンストップで提供できる優位性を強調

進捗状況

①⇒国内のランサムウェア被害は2026年上半期に123件と半期で過去最多、侵入経路の約5割はVPN機器(※1)
こうした中、当社のセキュリティ関連売上(※2)は193百万円・74社に拡大(3Q累計120百万円・62社)、顧客の8割超で保守・ライセンス更新の売上を計上

4Qはランサムウェア被害を想定した復旧訓練の支援、店舗ネットワークの分離、リモートアクセス環境の更改などを実施
期末後はPHPの重大な脆弱性を受け、Cloudflare社(※3)のクラウド型WAF(※4)を既存顧客へ提案し、引き合いを獲得
また、Synology Japan社とパートナー契約を締結
両社製品の**「サイバー忍法帖®」**へのラインアップ追加に加えて、VDI環境のセキュリティ脆弱性発見と対処に特化した“VDI Security Emergency Rescue”(VSER〈ブイサー〉)サービスの提供も開始

(※1) 警察庁「令和8年上半期におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について」(2026年9月)
(※2) 当社の事業戦略区分による管理上の集計値
(※3) Cloudflareは、米国およびその他の国におけるCloudflare, Inc.の商標または登録商標です。
(※4) Web Application Firewallの略。Webサイトへの攻撃を入口で検知・遮断する仕組みで、プログラム修正までの間の対策にも用いられる。

© 2026 PBsystems,Inc.

セキュアクラウドシステム事業　3:スマートファクトリー

「ニッポン製造業復権のための最先端工場を！」

戦略

①**基盤技術導入**（Wi-Fi6、ネットワーク刷新）
セキュリティを確保した物理ネットワークとWi-Fi環境を整備し、通信基盤として高い柔軟性と可動性の提供

②**ローカルLLM/SLM**（※1）
ローカルLLM/SLMを活用したスマートファクトリーの実現により、自社独自の製造機密ノウハウや社内データを外部に出すことなく活用し、より高度な自動化と効率化を推進

③**フルスマートファクトリー化**
将来のデータ活用・AI連携によるIoT・動画/画像監視分析、ロボティクスによる無人工場領域までに対応する、拡張性の高い通信・システム設計・構築を提供

進捗状況

①⇒大手製造業向け工場ネットワーク刷新は、9月に最終の2工場とクラウド接続を構築し全拠点の検収を完了、食品製造業の新工場ではサーバ基盤（SCL）と映像環境（EMO）を一体で完納

②⇒AI関連企業へローカルLLM用ワークステーションを納入
社内ではNVIDIA DGX Sparkで、機密データを外に出さないAI環境を検証

③⇒工場IoTの提案に向けパートナーとの連携を準備
工場ネットワークの実績を起点に、生産停止につながるサイバー攻撃への備え（OTネットワークの分離）と生成AIの導入を提案中。「ネットワーク→セキュリティ→AI」の順に工場のモダン化を推進

（※1）Local Large/Small Language Modelの略。クラウドを利用せず自社内で生成AIを運用する仕組み。セキュリティや応答速度に優れている。

© 2026 PBsystems,Inc.

エモーショナルシステム事業　1：MetaWalkers®

イベント出展を中心にした新たな取り組みの進展

戦略

①災害体験コンテンツの充実

株式会社理経の『豪雨災害編』『火災避難編』、一般社団法人AR防災の「VR地震体験」に加えて、TOPPAN株式会社の災害体験VR（豪雨災害、地震、津波を一度に体験）をコンテンツに追加し、企業や地方自治体の年間10件以上の防災イベント出展を目標として、イベント実績からの本体販売への進展を目指す

②メタバースや3Dシミュレータの上映

MetaWalkers®をメタバース空間や3Dシミュレータのアウトプット装置として利用することにより、複数人が同時にメタバース空間、3Dシミュレータを体験できるように企業や自治体の展示施設への導入を目指す

③新規大手パートナー企業の発掘

様々な分野の専門大手企業とパートナーとして協業することにより、専門性や強みからの顧客ニーズを汲み取り、当社製品及びサービスの付加価値向上を推進

こうした取り組みを通じて、専門市場における競争力の強化を図ると同時に、事業領域拡大のための営業力を増強

進捗状況

①⇒ 2026年9月期の防災イベント実績は2件、その他イベント6件
自治体向け防災イベント・防災シアター 2026年9月に本社でVR防災体験会（自治体・教育関係者向け）を開催
複数の自治体から概算見積の依頼があり、消防の防災シアター更新提案も進行中

②⇒観光地の展示施設へ常設導入 大手印刷会社経由で、観光地のビジターセンター向けに360°映像を上映する小型の2D版MetaWalkers® ATOMを受注（2027年2月納品予定）
施設のエントランスに常設し、来館者が最初に体験する展示となる計画

③⇒大手パートナー経由の提案が進展 販売パートナー経由で大手製造業（鉄鋼）の拠点向けに防災シアターを提案し、来社体験で災害コンテンツの迫力・没入感が高評価
予算化に向け社内調整が進展し、新たな販売パートナーとの体験会・自治体向けデモも進行

今後：防災・安全教育を自治体から企業へ広げ、
エンタメと防災の両輪での成長を想定

© 2026 PBsystems,Inc.

エモーショナルシステム事業　2：MetaAnywhere®

MetaAnywhere®は、プロダクトアウトからマーケットインを実現する製品！
カスタマイズ前提の新しい空間演出ソリューション！

戦略

① 顧客の利用目的や課題を起点としたソリューション提案型ビジネスを推進し、既存施設や設備も利用しながら、より高付加価値な映像体験の創出を目指す

②製品の提供に加え、空間演出・既存コンテンツの上映を含めた映像制作を組み合わせることで、顧客満足度の向上を実現する

進捗状況

①⇒大型アトラクション案件が運用開始
大型アミューズメント施設のアトラクションのリニューアル（映像・システム一式）を納入し、2026年7月に運用開始
運用開始後の障害対応に加え、予備機等の追加受注へ発展

②⇒遊園地の稼働支援と、産業の現場への展開
複数の遊園地で機器の納入・修理と3Dシアターのリモート保守を継続
大型食品工場ではサーバ基盤（SCL）と映像環境（EMO）を一体提供し完納
その他導入実績として、科学館向け180°3Dシアター常設、市民センター向け3Dシアターあり

今後：演出力を「産業の現場」へ広げ、保守まで続く取引を積上げ

© 2026 PBsystems,Inc.

エモーショナルシステム事業　3:企業・自治体向けメタバース

データベース連携が可能な当社メタバースの特徴を活かし、安全教育、住宅販売、教育分野への導入を目指す

戦略

①大規模プラント・工場における安全教育
テキストや動画では再現できない事故の疑似体験や、再発防止研修をメタバース上で実現

②住宅販売でのメタバース活用
国内外の顧客と住宅展示場をバーチャル空間で共有し、リアルに近い商談体験を提供

③学校教育分野でのメタバース活用
メタバース空間を短時間で構築可能な新ソリューションの「メタバースビルダー」を学校教育分野に提案

進捗状況

①⇒大手製造業(鉄鋼)の工場向け火災・地震訓練
工場を想定した火災・地震訓練を実演し高い関心
本社DX部門への提案を進め、安全教育部門(別組織)への展開も有望
防災メタバースのチラシを制作し、鉄道・航空・空港・製造業・教育機関などに発送し、デモ体験へ誘導

②⇒住宅販売でのメタバース活用
点群データから住宅施設を再現したデモ版で、営業活動を継続

③⇒学校教育向けメタバースビルダー
「メタバースビルダー」をIT事業者経由で高校向けに提案

今後:安全教育のひな型を製造業や交通インフラ、教育機関等へ横展開

© 2026 PBsystems,Inc.

2026年9月期　株主還元と株主優待

© 2026 PBsystems,Inc.

2026年9月期　期末配当

1株あたり10円～12.5円　→　**12.5円**

年間配当合計額　22.5円

（前年20円から**2.5円増配**）

配当利回り　**4.8%**　※ 2026年11月9日の終値464円で計算

© 2026 PBsystems,Inc.

株主優待

株主優待の内容は例年通り

①特製カレンダー





表紙を10年間、縦横に並べると何かが見えてくる仕掛けのデザイン
今年の表紙は毎年連作の7枚目に

※デザインは描き下ろしイラストに変更予定

②QUOカード



100株以上保有の株主様にQUOカード500円分を贈呈

※デザインは描き下ろしイラストに変更予定

© 2026 PBsystems,Inc.

2027年9月期　計画

© 2026 PBsystems,Inc.

2027年9月期計画トピック

2030年9月期 ROE30%達成に向け、成長戦略を加速させる2年目

- 売上高30億円台への再挑戦と利益成長
- 全社的な集約戦略 「資産活用型 基幹システムモダナイズ」
- SCL事業は、サイバー攻撃に備えた企業システムのインフラ・セキュリティ・アプリ・工場のモダン化
- EMO事業は、映像・空間（MetaWalkers®・MetaAnywhere®）・コミュニケーション（メタバース）のモダン化

SCL事業はセキュアクラウドシステム事業、EMO事業はエモーショナルシステム事業の略称

© 2026 PBsystems,Inc.

多岐にわたるモダナイズ

クラウド・AI・映像技術は、顧客企業を進化させるための手段

資産活用型 基幹システムモダナイズ

システムインフラのモダン化

「古いシステムインフラが障害やサイバー攻撃により、業務が止まるリスクが急伸した昨今の状況」に対応

アプリケーションのモダン化

「VB・Access等のサポート切れ旧言語アプリケーションのモダン化」への対応

サイバーセキュリティのモダン化

「防御から復旧まで対応する、最新の総合セキュリティ実装」への対応

工場のモダン化

「ニッポン製造業復権のために、既存設備を極力生かしつつ、最先端工場化」への進化対応

映像・空間のモダン化

自社製品：MetaWalkers®
自社製品：MetaAnywhere®

コミュニケーションのモダン化

個人向けではなく、企業・自治体向けメタバースの構築

© 2026 PBsystems,Inc.

セキュアクラウドシステム事業（SCL）

システムインフラのモダン化

基幹システムのインフラ刷新における最適解
<ハイブリッドクラウド>
オンプレミスの信頼性とクラウドの柔軟性を活かし、拡張性・可用性、災害対策・セキュリティを強化。コスト最適化と業務継続性の両立で、システムの安定運用と競争力向上の実現

サイバーセキュリティのモダン化

「サイバー忍法帖®」
特定メーカーに依存せず、最新の選りすぐり製品を組み合わせて導入・運用・監視・バックアップ・復旧・ログ保全・フォレンジックまでワンストップで提供

アプリケーションのモダン化

AI活用による業務システムのモダン化
レガシーアプリケーションをAIを活用して刷新・高度化
古い言語によるシステムは既に理解、メンテナンスできる人材が社内に不在のケースも多くなっているため、AI駆動型開発によって、ロジックを崩さず、最新言語へモダン化する
オラクルクラウド（OCI）（※1）やローカルLLM/SLM（※2）基盤との連携も見据え、迅速な意思決定と競争力の向上を実現する新しいアプリケーションを構築

工場のモダン化

①**基盤技術導入**（Wi-Fi6、ネットワーク刷新）
セキュリティを確保したWi-Fi環境を整備PCのみならず、IoT機器が工場の設置場所問わず快適な通信が可能な基盤構築
②**ローカルLLM/SLM**（※1）
自社独自の製造機密ノウハウを外部に出さず継承活用し、少数精鋭による高度な工場オペーレーションを推進
③**フルスマートファクトリー化**
AI連携によるIoT・動画/画像監視分析、ロボティクスによる無人領域に対応した、高拡張性の通信・システム設計・構築

（※1）**Local Large/Small Language Model**の略。クラウドを利用せず自社内で生成AIを運用する仕組み。セキュリティや応答速度に優れている。

© 2026 PBsystems,Inc.

エモーショナルシステム事業（EMO）

SCL＝IT資産のモダナイズ　EMO＝空間・体験資産のモダナイズ







MetaWalkers®／MetaAnywhere®

既存の教育・展示、施設・設備を活かし、目的に応じた没入型映像体験を提供

企業・自治体向けメタバース

既存の教育・販売・説明を、
仮想空間へ拡張

モダナイズ領域を「空間・体験」へ広げ、新しく作るだけでなく、今ある資産の価値を高める

© 2026 PBsystems,Inc.

2027年9月期 計画

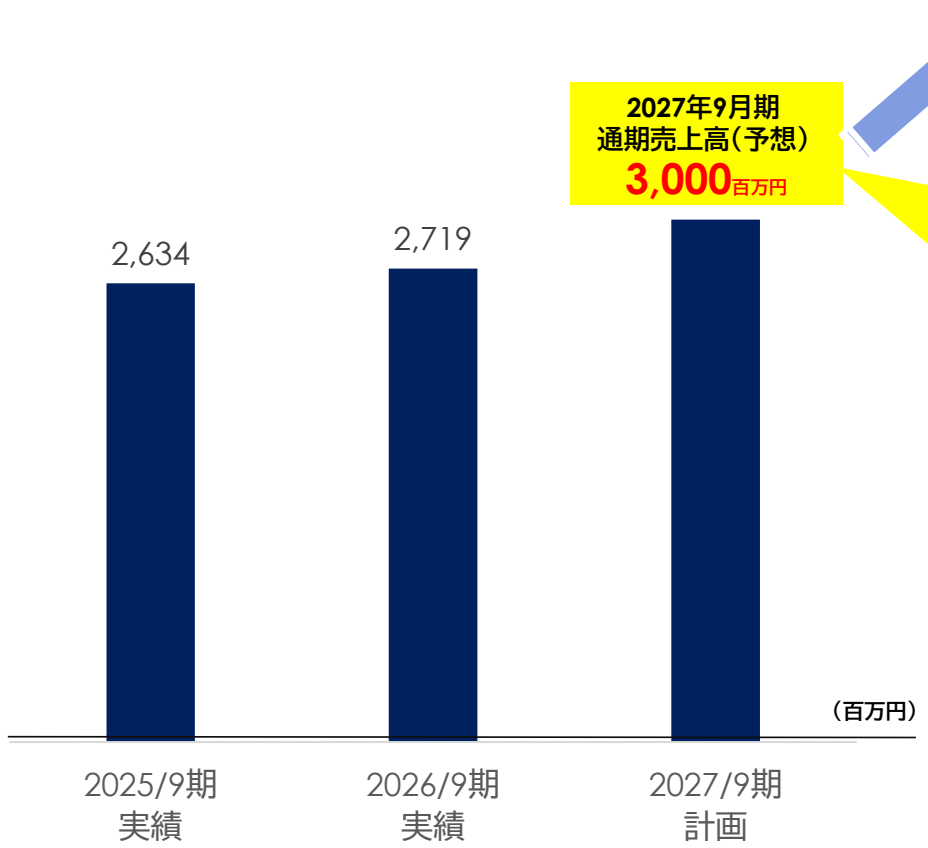
（単位：百万円）	売上高	営業利益 （営業利益率）	経常利益 （経常利益率）	当期純利益 （当期純利益率）	ROE 自己資本利益率
通期予想 （対売上比率）	3,000	268 （8.9%）	276 （9.2%）	187 （6.2%）	15.9%
前年同期比	＋10.3%	＋22.4%	＋21.0%	＋12.9%	＋1.5ポイント

- **売上高30億円台に再挑戦し、営業利益前期比＋20%超（＋22.4%）の実現**
- **営業人員の増強と案件管理の仕組み化による中堅企業の基幹システムモダン化案件の受注量増加**
- **若手エンジニアの戦力化とAI活用による生産性・売上稼働率の向上**
- **新卒中心の採用方針を継続、社員数100人に向け人財採用を加速**

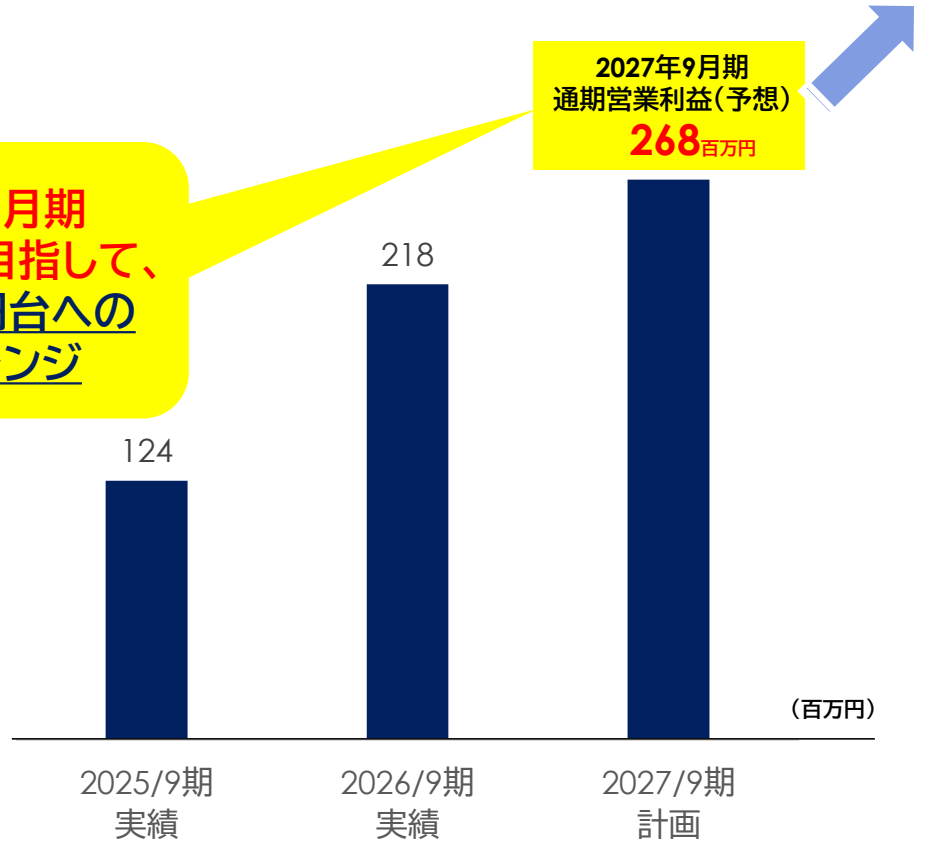
© 2026 PBsystems,Inc.

業績推移と2027年9月期の計画

売上高の推移と予想



営業利益の推移と予想



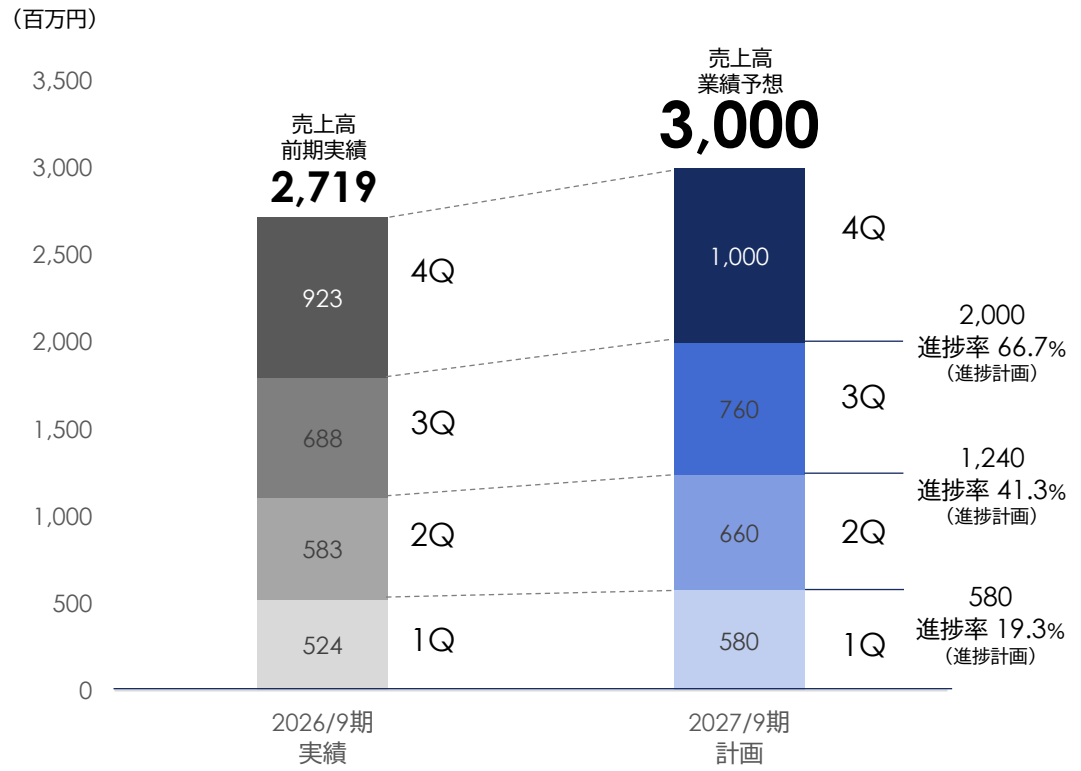
2030年9月期
ROE30%を目指して、
売上30億円台への
再チャレンジ

© 2026 PBsystems,Inc.

2027年9月期 各四半期の進捗計画

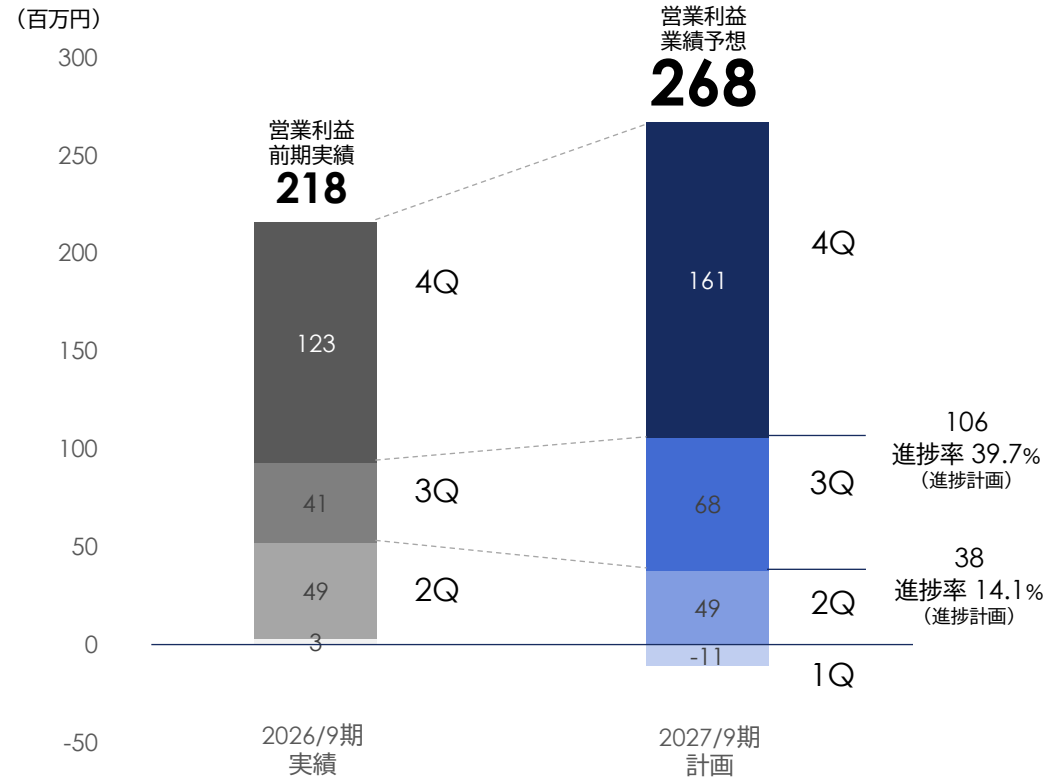
売上高 進捗計画

四半期で前期超え、安定した売上成長へ



営業利益 進捗計画

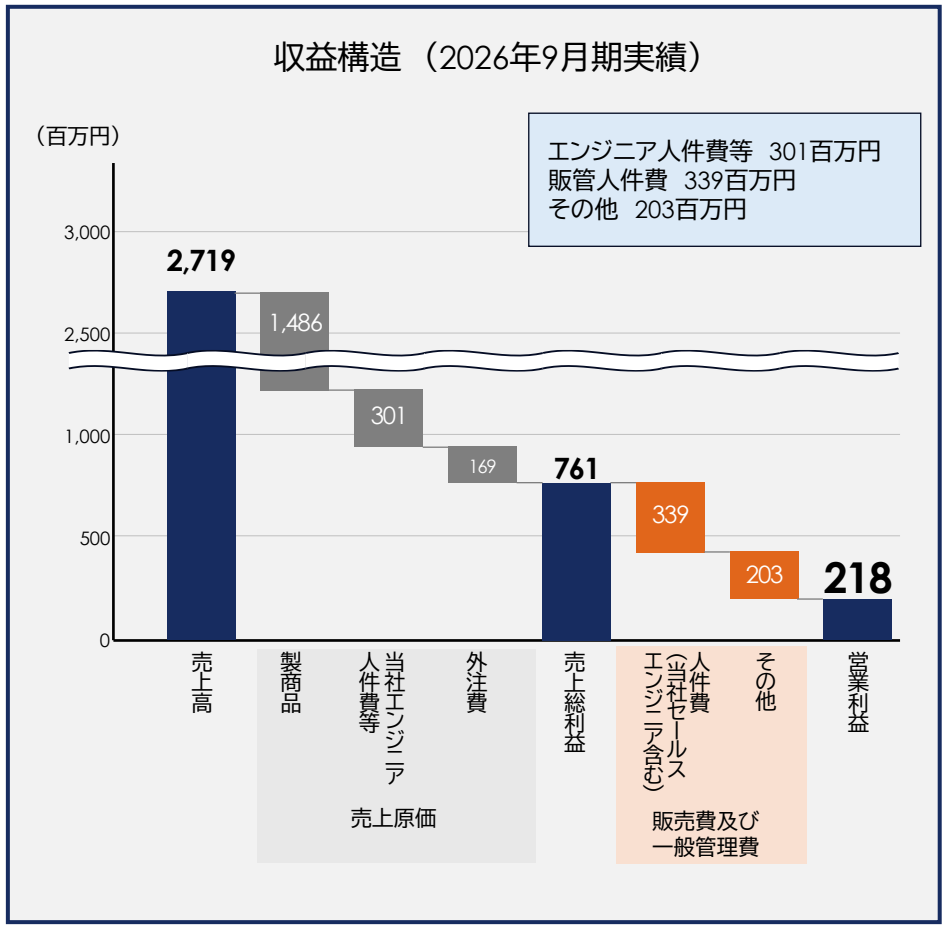
2Q以降は利益を積み上げ、3QよりYoY超え

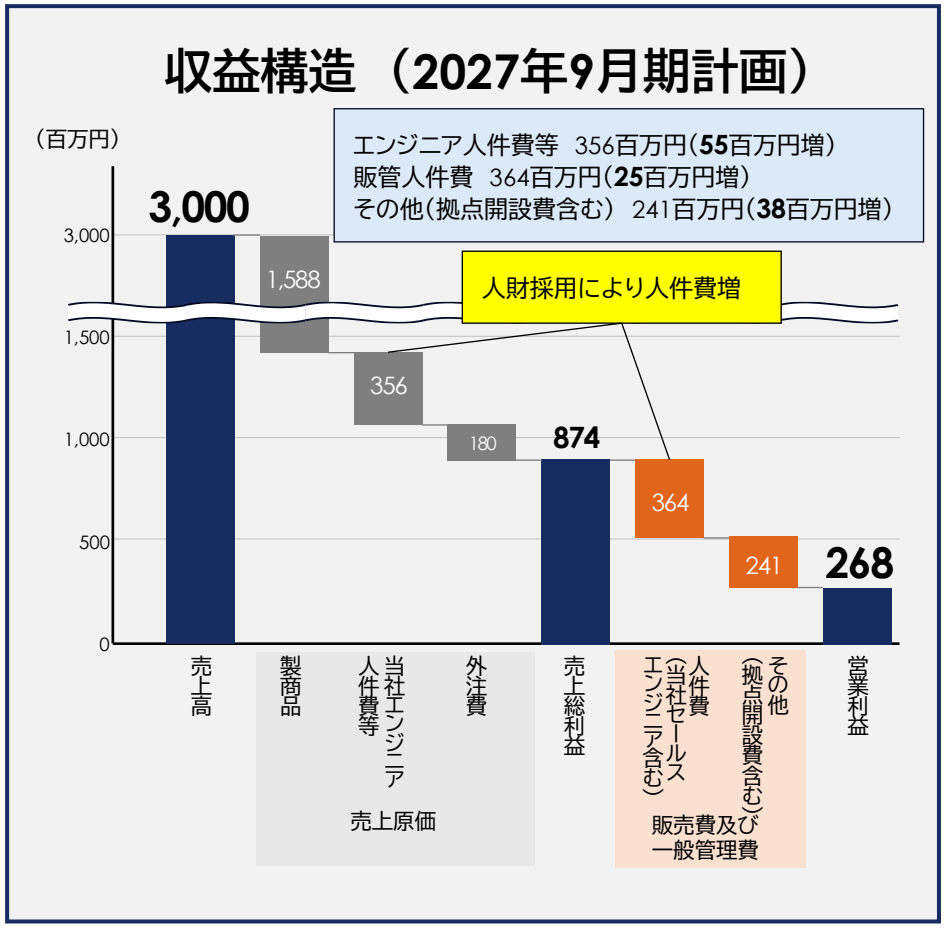


© 2026 PBsystems,Inc.

2027年9月期 収益構造

人財採用と育成、東京営業部拡張等への拡大投資を継続計画



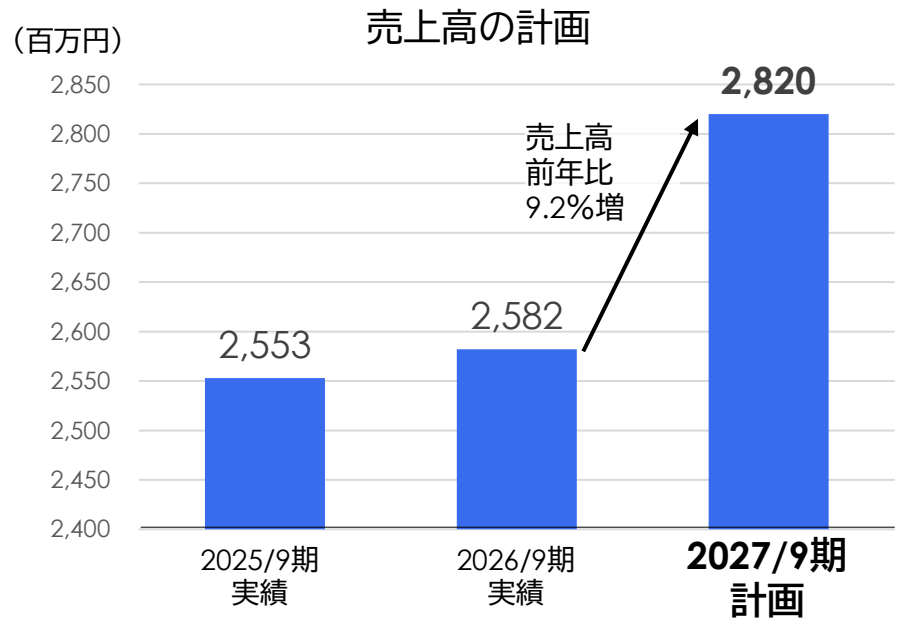


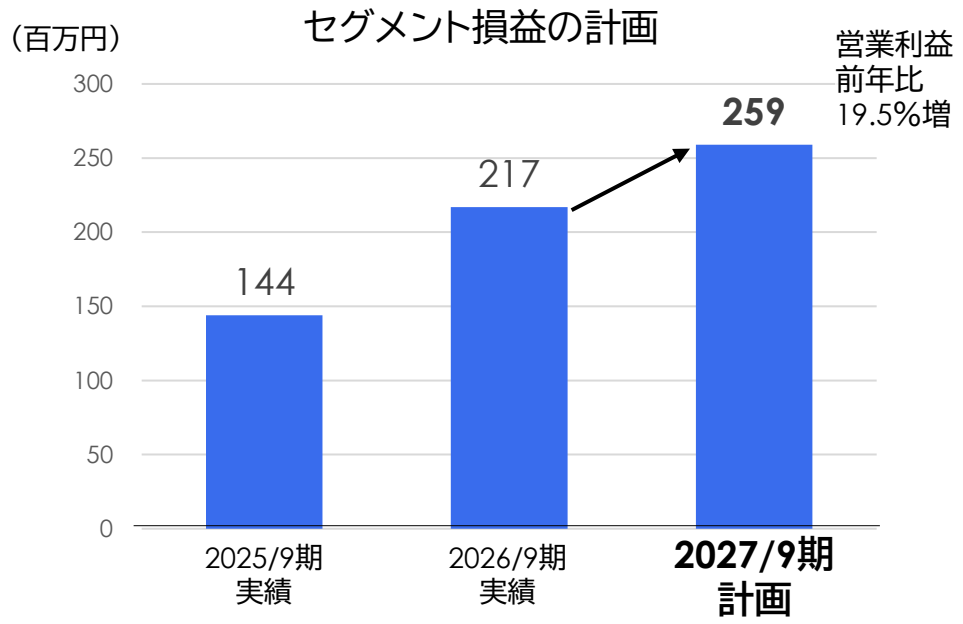
端数処理の関係で合計数値が合わない場合があります。

© 2026 PBsystems,Inc.

セキュアクラウドシステム事業 2027年9月期の計画

ハイブリッドクラウド構築、サイバーセキュリティ対策を中心に！
基幹システムの老朽化や、不測のサイバー攻撃による業務停止といった社会問題の解決で、売上拡大へ





- 売上高は2,820百万円、前年比9.2%増、セグメント損益は259百万円、前年比19.5%増、営業利益率9.2%（前年より0.8ポイント増）
- “資産活用型”モダナイズとセキュリティ対策を一体提案、Cloudflare(※2)等でサイバー忍法帖®を拡充
- 受注力強化のため、セールスエンジニア純増に加えて、エンジニアからセールスエンジニアへ人財シフトを計画

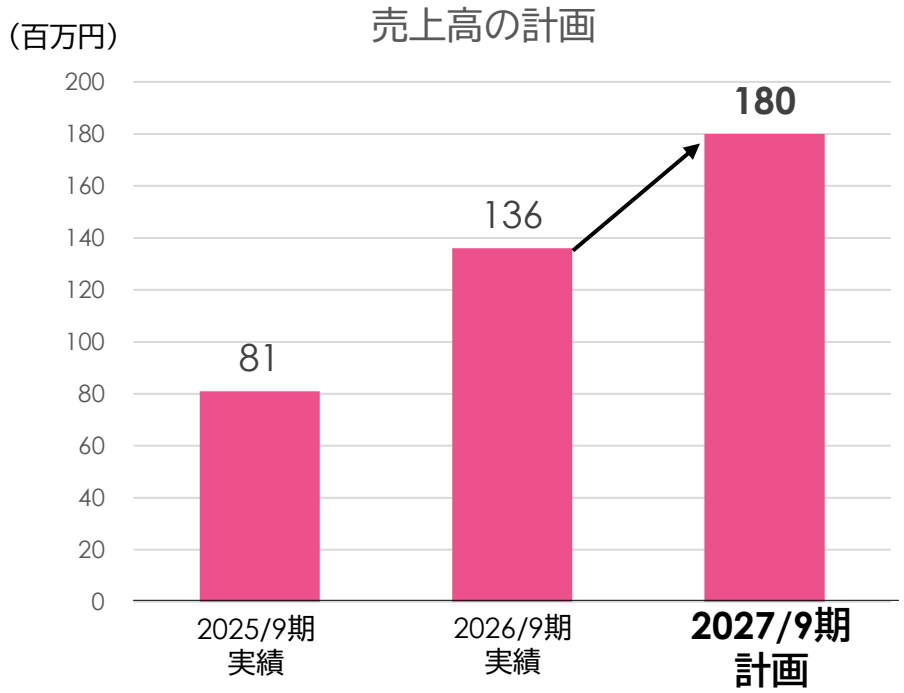
（※1）実態をわかりやすく表現するために、参考数値として全社費用配賦後のセグメント損益を記載しています。（全社費用を各セグメントの人員割合で配賦）

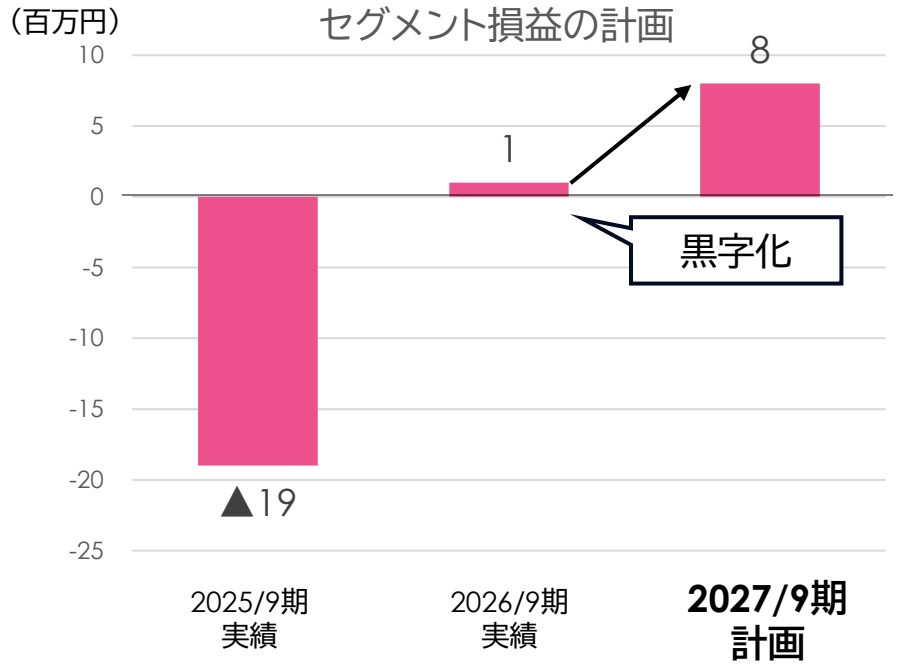
（※2）Cloudflareは、米国およびその他の国におけるCloudflare, Inc.の商標または登録商標です。

© 2026 PBsystems,Inc.

エモーショナルシステム事業 2027年9月期の計画

国土強靭化・地方創生など、国策需要の獲得から成長へ





- 売上高は180百万円、前年比32.1%増 、セグメント損益は8百万円で2期連続の黒字を計画
- 国土強靭化(防災対策)、地方創生、テーマパーク等の分野でMetaWalkers®・MetaAnywhere®を販売拡大へ
- 企業向けメタバースは産業分野の安全教育とセキュアクラウドシステム事業の既存顧客へのクロスセルで収益化

(※1) 実態をわかりやすく表現するために、参考数値として全社費用配賦後のセグメント損益を記載しています。(全社費用を各セグメントの人員割合で配賦)

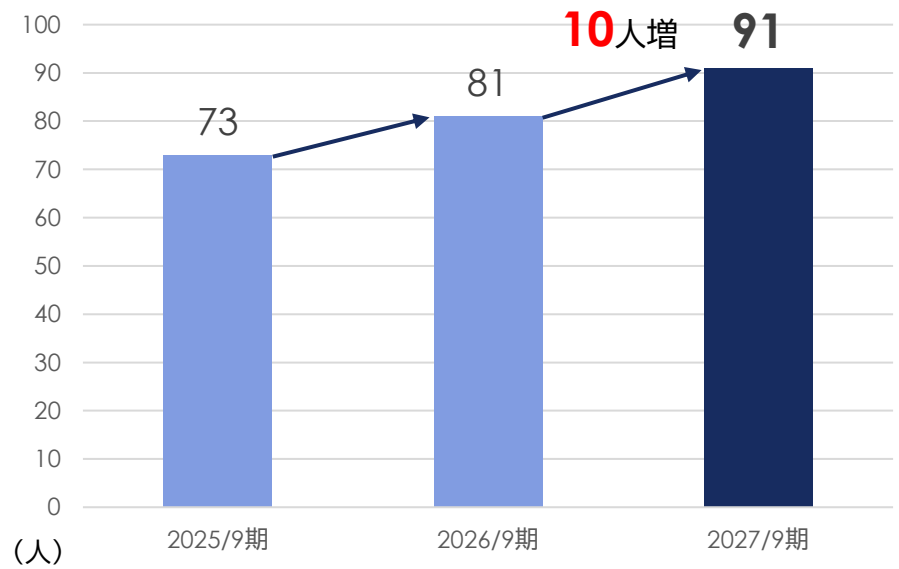
© 2026 PBsystems,Inc.

人財採用の推移と計画

2027年9月期も積極的な採用を継続

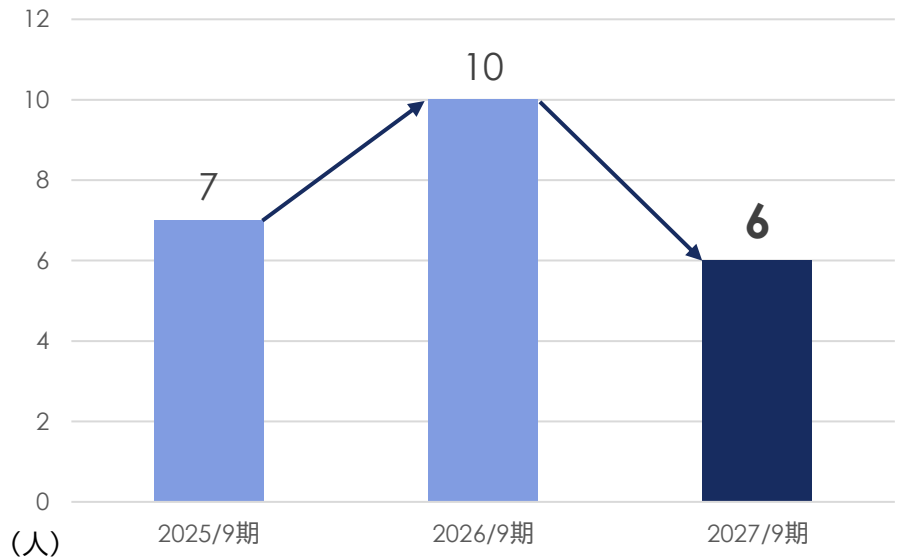
従業員数

前期増加実績8人を上回る合計10人増の計画



新卒採用者数

2027年卒の新卒採用は**8人の計画に対して**
6人内定（過去3年新卒社員数21名、退職者ゼロ）



（※）人数にはいずれも派遣社員・パート社員を含みません

© 2026 PBsystems,Inc.

2027年9月期　株主還元

© 2026 PBsystems,Inc.

株主還元(配当予想)

2027年9月期　配当予想

1株あたり22.5円(2026年9月期)→22.5円～23円

中間配当:10円

期末配当:12.5円～13円

© 2026 PBsystems,Inc.

免責事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。

これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招来し得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料の作成に当たり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、当社以外の情報についてはその正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。

当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズ及びユーザーの嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。

© 2026 PBsystems,Inc.

本資料に関するお問い合わせ



Powerful and Beautiful
PBsystems
株式会社 ピー・ビー システムズ

〒812-0007 福岡市博多区東比恵3-3-24
株式会社ピー・ビーシステムズ
経営企画部　IR担当
TEL　092-481-5669
MAIL　ir@pbsystems.co.jp
URL　https://www.pbsystems.co.jp

© 2026 PBsystems,Inc.